

集団的自衛権容認の閣議決定に抗議！

7月1日に行われた阿部内閣による集団的自衛権容認の閣議決定に抗議の行動、全国で

奈良 県民集会を500人参加で開催！ 報道ステーションで報道



7月2日(水) 憲法9条守れ！奈良県共同センターは「戦争する国づくり反対！安倍内閣打倒！奈良県民集会」を近鉄奈良駅前で開催し、500人を超える参加で県民に大きくアピールしました。センター代表の佐藤真理弁護士は安倍内閣の閣議決定について「立憲主義や国民主権に反する違憲、無効の決定だ。閣議決定撤回の世論を広げよう。秋の臨時国会に向け、たたかいの輪を更に大きく」と力強く訴えました。奈良県うたごえ協議会による「戦争はもういやだ」の合唱、新婦人奈良県支部は紙芝居を使っての訴え、集団的自衛権シール投票など多彩なアピールが集会を盛り上げました。

集会終了後、近鉄奈良駅前からJR奈良駅、三条通りから猿沢の池までパレードを行い、「閣議決定撤回！」「憲法9条を守れ！」「若者を戦場に送るな！」と工夫を凝らした宣伝物を片手にアピールしました。パレードの様子は7月2日夜にテレビ朝日の報道ステーションで紹介されました。

(憲法9条守れ！奈良共同センター)

大阪 天王寺駅前 150人で緊急宣伝行動

大阪憲法会議・共同センターは2日、緊急の宣伝行動を天王寺駅東口で開催しました。緊急の呼びかけに応じて150人が参加しました。憲法会議リーフなど1000枚を配布し、署名は120人分に及びました。

「閣議決定撤回」「9条破壊は許さない」「戦争する国づくり反対」のシュプレヒコールは、参加者と市民が一体感を共有するものとなりました。参加者は、「たたかいはこれから」と国民的反撃の先頭に立つ決意を実感しました。秘密保護法のと看以上の反応で、梅田幹事長などの「最終的に決めるのは私たち国民の世論と運動です」等の訴えに、不安と怒り、一緒に声をあげようという市民の熱い思いがひしひしと伝わってきました。

また、この日、大阪府下の各地で宣伝行動がとりくまれました。堺では午後6時から緊急集会が開催され、400人がデモ行進に参加しました。堺東に抗議の声が響きわたりました。1週間の準備期間で市内各地から参集。瓦町公園での集会では最高規模になりました。

(大阪憲法しんぶん速報「平和」より)

埼玉 県議会3会派で声明公表、5地方議会で意見書採択

安倍内閣が集団的自衛権行使容認の閣議決定を行ったことに抗議し、1日、埼玉県議会の日本共産党、民主党、社民党の3会派が「閣議決定の撤回を求める声明」を公表しました。そして3会派は夕方さいたま市のJR浦和駅前で行った共同の宣伝行動を行いました。

3会派の声明は、「憲法に基づいて政治を行うべき立場にある内閣が、勝手に解釈を変えることは、立憲主義の否定であり、あってはならないこと」と強調しています。そして安倍内閣に対し「憲法遵守の立場に立ち返り、集団的自衛権行使容認の閣議決定を撤回するよう」に強く求めています。

埼玉県下で集団的自衛権行使に反対、あるいは慎重審議を求め、国に意見書をあげている地方議会は7月1日現在 鳩山町・宮代町・都幾川町・越谷市・新座市。各議会とも自民党、公明党が「賛成」「反対」まちまちの対応で、両党が悩んでいることが示されています。

憲法会議は9月議会へ向けて引き続き意見書採択を求める運動を強めるよう呼びかけています。

(しんぶん赤旗首都圏版と埼玉憲法会議「希求」を基に作成)



東京 多摩市民「九条の会」1時間で800枚のビラ配布

東京の多摩市民「九条の会」は、1日、安倍政権が集団的自衛権の行使を容認する「閣議決定」を強行したことに抗議して、永山駅前では宣伝しました。

約40人の会員らが独自に作成したビラを配りながらリレートーク。ビラを受け取った市民からは「官邸前の抗議集会に行ってきたよ」などの声が寄せられました。1時間で800枚のビラを配布し、容認反対の署名にも39人が応じました。
(しんぶん赤旗 首都圏版より)

兵庫 バスから降りて署名、現職自衛隊員も署名

憲法改悪ストップ兵庫県共同センターが、7月1日の夕刻、神戸・大丸前で「集団的自衛権の行使を認める閣議決定するな」の宣伝行動をしていると、60歳過ぎの女性が話しかけてきました。「介護を待つ夫がいるので早く家に帰ろうとバスに乗ったが、宣伝の音が聞こえたので降りてきました。私にもできることがあるのではと思って」署名用紙にしっかり名前を書いていただきました。

また、現職の自衛隊員ふたりが、「お願いします」と言って署名をされました。

(憲法改悪ストップ兵庫県共同センター代表 津川知久氏の声明より)

長崎 浜町アーケードで署名宣伝行動



憲法改悪阻止長崎県共同センターは、安倍内閣が「集団的自衛権行使容認」の閣議決定を行った翌2日のお昼に長崎市内の浜町アーケードで抗議の宣伝行動を行いました。13人が参加（うち9人は新婦人からでした！）して約400枚のチラシをまき、署名180人分が寄せられました。「怒りの一言」にも6人がメッセージを託しました。

参加した大橋由紀子さんは、次のような感想を寄せてくださいました。

行動する私たちがまず怒っていました。学生や市民、特に年配の女性の反応が大きかった。「安倍さん、何を考えているの！許せない」と怒る人もいました。「戦争は嫌」という女性、子どもを戦争に送りたくないから」と言って署名する人。市民の気持ちが私たちと同じだということがビンビン伝わってきました。中には「私は引き揚げ者です。戦争はゴメン！」という人もいました。市民の気持ちを受け止める、私たちの行動はとても重要だと思いました。

(長崎県共同センターニュースより)

原水協 官邸前抗議行動 朝日新聞一面に掲載

2日、原水爆禁止日本協議会（日本原水協）は集団的自衛権行使容認の閣議決定の撤回を求める抗議行動を首相官邸前で行いました。全国担当常任幹事ら約30人が参加し、「閣議決定今すぐ撤回」「戦争する国、絶対反対」等と各地から参加した代表が次々とマイクを握り訴えました。

広島原水協の吉田事務局長は「太平洋戦争の行きついた先が原爆投下です。69年たった今でも被爆者は苦しみ続けています。その被爆者の声に耳を傾け、ただちに閣議決定を取り消すべきです」と訴え、長崎原水協の佐藤事務局長は「戦争や原爆で犠牲にしたことの反省の上につくったのが憲法です。再び国民が犠牲になることがないよう、決定はすぐ撤回してほしい」と語りました。

この行動が3日の朝日新聞1面に大きく掲載されました。紙面には即時撤回の横断幕とともに参加者が持つ原水爆禁止世界大会の「はだしのゲン」のポスターも大きく写っていました。

(しんぶん赤旗をもとに作成)

韓国各紙 「戦争国家」宣言等と批判

安倍内閣が集団的自衛権の行使を揺籃する閣議決定をしたことを受け、韓国各紙は2日、いっせいに「日本が戦争可能な国になった」と報道しました。

朝鮮日報は「69年ぶりに『戦争する権利』公式宣布」との見出しで、専守防衛の原則を事実上投げ捨てたと指摘。社説では、官邸前での抗議行動にふれ、安倍内閣の暴挙を「日本を戦争する国にしたいがために他ならない」と批判しました。

京郷新聞も社説で、閣議決定の強行は「政治的反則だ」とし、ソウル新聞も「安倍が『戦争国家』宣言、日本『侵略DNA』復活」と報じました。

(しんぶん赤旗より)

戦争する国づくりストップ！憲法を守り・いかそう！